

「むかしの勉強・むかしの遊び」展

同展では、昭和30年代の遊びや暮らし、学校の様子を再現しています。お菓子がいっぱい入った木のケースを所狭しと並べている駄菓子屋、足踏みミシンや黒電話のある居間、木の机と椅子が並んだ小学校の教室など、ノスタルジックな情景に浸ることが出来ます。小学校の教材や遊び道具が並んでいるコーナーでは、「こんな絵の具使ってたな」「このローラースケート懐かしい」と、思い出話に花が咲きそうです。また今回は、展示室の一角に「映写機の世界」のコーナーを設けました。博物館の收藏品の中から昭和30年代の8mmカメラや映写機、フィルムを集め、展示しています。ズーム機能や動力の変遷などを知ることが出来ます。同展は、3月2日(日)まで開催中です。



手巻き式8mmカメラ(左)と、電動式8mmカメラ(右)



思わずくつろぎたくなるような居間

見ているだけでもワクワクしてきます



赤大根

皮が赤や紫色をした大根を総称して、赤大根といいます。

きれいなピンク色になるんですよ。

長さは25cm程度と、一般の大根よりやや小ぶり。辛みが弱く甘みがあります。栽培や保存の方法は、普通の大根とほぼ同じ。保存する際は、葉の部分を持ち落とし、新聞紙にくるみ、立てておくことで鮮度を保つことができます。彩りとして使われることが多いので、大きいものよりも小さいものが好まれるそうです。



「栽培を始めたきっかけは、料理店への出荷です」と森下さん

色は、皮だけでなく果肉にもついているものなど、品種はさまざまです。

「皮ごとスライスしてサラダに使うと、赤色が映えます」と話すのは、果肉が白く皮全体が赤色の品種を栽培している森下登志夫さん(中福)。「甘酢漬けにすると、皮の赤が染み出して、3日くらいで全体が



森下さんが栽培している赤大根。皮はきれいな赤色です

編集後記

どんぐり

博物館で開催中の「むかしの勉強・むかしの遊び」展」に行ってきました。特別展示室の入り口には、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定を記念して、昭和39年(1964)に開催された東京オリンピックの写真やポスター、記念コイン、東京五輪音頭のレコードなどが展示されていました。7年後の開催に向けてどんなポスターや応援ソングが作られるのか、今からワクワクします。



昭和39年東京オリンピックの記念メダル(左)と、絵はがき(右)